

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.154
2019/3/18

目 次

第 18 期理事会（2019～20 年度）役員選挙の結果	1
第 17 期・第 18 期新旧合同理事会報告	2
第 35 回年次大会参加申し込み方法および暫定プログラム	3
『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告	10
地域研究学会連絡協議会 2018 年度総会報告	11
寄贈図書	12
会員の異動	12
事務局より	14
編集後記	14

第 18 期理事会（2019～20 年度）役員選挙の結果

評議員選挙については、2019 年 1 月 16 日に開票の結果、学会細則 VIII-2 により、第 18 期の評議員は以下の 57 名で確定しました。有権者 362 名のうち、投票者数 140 名（うち有効票 125、無効票 14、白票 1）、投票率は 38.6%でした。

青山弘之、赤堀雅幸、秋葉淳、飯塚正人、五十嵐大介、池内恵、石黒大岳、板垣雄三、岩崎えり奈、岩崎葉子、臼杵陽、江川ひかり、大川玲子、大河原知樹、大稔哲也、岡真理、帯谷知可、粕谷元、勝沼聡、菊地達也、私市正年、栗田禎子、黒木英充、小杉泰、後藤絵美、小松久男、近藤信彰、桜井啓子、佐藤健太郎、澤江史子、清水和裕、末近浩太、杉田英明、鈴木恵美、高岡豊、鷹木恵子、谷口淳一、

辻上奈美江、東長靖、長岡慎介、長沢栄治、中町信孝、錦田愛子、長谷部史彦、羽田正、林佳世子、松本弘、三浦徹、三沢伸生、嶺崎寛子、守川知子、森本一夫、森山央朗、山尾大、山岸智子、山口昭彦、横田貴之（50音順、敬称略）

評議員選挙に続き、新評議員による理事選挙が行われ、2019年2月1日の開票の結果、以下の15名が選出されました。なお、理事選挙にあたり会則第9条の規定により赤堀雅幸、粕谷元、栗田禎子、森本一夫、山口昭彦の各評議員は理事選挙の被選挙権を有さないため、予め理事候補より除外されました。投票者数38名（うち有効票37、無効票1、白票0）、投票率は66.6%でした。

秋葉淳、岩崎えり奈、江川ひかり、大稔哲也、勝沼聡、菊地達也、黒木英充、近藤信彰、末近浩太、東長靖、錦田愛子、三沢伸生、森山央朗、山岸智子、横田貴之（50音順、敬称略）
（新井和広 選挙管理委員長）

第17期・第18期新旧合同理事会報告

日時：2019年3月6日（水） 16:00～20:00

場所：東京大学東洋文化研究所第1会議室

出席：赤堀雅幸、粕谷元、長沢栄治、保坂修司、森本一夫（以上第17期）、大稔哲也、勝沼聡、黒木英充、近藤信彰、山岸智子（以上第17期兼第18期）、秋葉淳、岩崎えり奈、江川ひかり、菊地達也、三沢伸生（以上第18期）

欠席：栗田禎子、桜井啓子、山口昭彦（以上第17期、委任状あり）、末近浩太、東長靖、森山央朗、横田貴之、（以上第17期兼第18期、委任状あり）、錦田愛子（第18期、委任状あり）

1. 第36回年次大会（2020年度）以降の大会開催校調整について申し送った。
2. 第25回公開講演会（2019年度）の企画案等について申し送った。
3. 第7回日本中東学会奨励賞の選考状況について申し送った。
4. 人文社会科学系男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）への参加について申し送った。
5. 会費前納制廃止の検討について申し送った。
6. 学会ウェブサイトの更新について報告があり、作業継続を申し送った。
7. 広報委員会の設置について、学会細則の改訂と併せ申し送った。
8. 学会会計の決算再監査の進捗状況について報告があった。
（以下、第18期理事予定者のみによる打ち合わせ）
9. 出席者の互選により、大稔哲也理事予定者を第18期会長として選任した。
10. 第18期理事の職掌分担について議論した（継続審議）。

（勝沼聡 事務局長）

第 35 回年次大会参加申し込み方法および暫定プログラム

前号、前々号でお知らせしましたとおり、日本中東学会第 35 回年次大会が、2019 年 5 月 11 日（土）は秋田市にぎわい交流館 AU、12 日（日）は秋田大学手形キャンパスにおいて開催されます。

1. 参加および懇親会の申し込みについて

日本中東学会第 35 回年次大会への参加事前申込は、暫定プログラムを皆様に送付した際のお知らせで、3 月 15 日（金）としておりましたが、4 月 5 日（金）まで延長いたします。参加事前登録の場合、大会参加費 1,000 円、1 日目の懇親会費 6,000 円（学生会員 4,000 円）と 2 日目の弁当代 1,000 円を先にお送りした、払込取扱票でお支払い下さい。通信欄の口にお支払いになる費目をチェックし、合計金額をご記入下さい。また、払込取扱票の「ご依頼人」の欄は必ずご本人のお名前を記入して下さい。所属機関の名称、などでのお振り込みはご遠慮下さい。2 日目の弁当代ですが、秋田大学手形キャンパス周辺は日曜日に営業している飲食店も少なく、コンビニエンスストアも徒歩 10 分圏内には 2 店舗しかありません。この点をご留意いただきまして、事前注文の判断をしていただければ幸いです。お振り込みいただいた大会参加費、懇親会費、弁当代の払い戻しは応じかねますこと、予めご了解ください。

なお当日参加登録は、大会参加費 2,000 円、懇親会費 7,000 円（学生会員 5,000 円）とさせていただきます。なお、2 日目の弁当代の当日申込はお受け致しません。

振込先は以下の通りです。

ゆうちょ銀行振替口座

口座記号番号：02210-2-143316

加入者名：日本中東学会第 35 回年次大会実行委員会

(ニホチユウガクカクダ イシジ ユウゴカイシジ)

2. 託児所の設置について

託児所利用の希望を受け付けております。大会当日に託児所の利用を希望される方は、4 月 19 日（金）までに必ず、実行委員会事務局までご連絡下さい。その際は預けられる予定のお子様の性別・年齢をもお知らせ下さい。託児所の費用につきましては託児所会計からの費用を充当する予定ですが、利用者の方に利用時間に応じて多少のご負担をお願いいたします。

3. 研究発表について

2 日目（5 月 12 日）の研究発表につきましては、個別発表 45 件（KAMES 関係者発表が 2～3 件追加予定）、企画セッション 8 件の応募がありました。多数の応募をいただき、誠にありがとうございます。

暫定プログラムは後段の通りです。今後、発表予定者の都合などによる変更の可能

性のありますこと、よろしくご了承下さい。最終的なプログラム、会場への交通案内、総会議決の委任状などは4月中旬にお手許までお届けする予定です。

4. 日本中東学会第35回年次大会暫定プログラム (2019年3月4日現在)

日時：2019年5月11日(土)、12日(日)

会場：1日目 秋田市にぎわい交流館AU 多目的ホール

〒010-0001 秋田市中通一丁目4-1 (JR秋田駅西口から徒歩7分)

2日目 秋田大学手形キャンパス

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 (JR秋田駅から徒歩20分、車6分)

※ 秋田市へのアクセスは秋田新幹線か、空路が便利です。最寄り空港は秋田空港(ANA、JAL)で、秋田空港から秋田駅まではリムジンバスで約35分です。

第1日：2018年5月11日(土) 秋田市にぎわい交流館AU 多目的ホール

13:00~16:45 公開講演会「中東地域における多元的資源観の醸成を目指して」

この半世紀にわたる日本・中東関係構築の軸は、「産業発展のための原料としての資源(とりわけエネルギー資源)の確保」という課題であった。そのような中、エネルギー産業と理学・工学・社会科学のように産業界と学术界は密に協力してきた。しかしながら学术界全体においては、各分野での堅実な進歩とは裏腹に、人文社会科学と自然科学の間には必ずしも緊密な研究交流があったわけではなく、いわゆる文理融合的な学際研究は他地域(例えば東アジア、東南アジア、アフリカ)に比べてあまり深化してこなかったと言える。

一方、近年、資源確保を軸とした日本・中東関係は新たな局面に移行しており、レアメタルを含む金属鉱床の共同調査、太陽光発電や原子力発電の共同事業といった石油・天然ガスの代替えとなるエネルギー分野に加え、地球環境問題や社会問題等のグローバルイシューにも積極的また多面的に関与する必要が生じている。

そこで本シンポジウムでは、中東における持続的な資源開発と良好な関係の継続と発展のためには、理学・工学分野と人文・社会科学分野、さらにはグローバルなレベル(実業界や国際機関)とローカルなレベル(地域住民)を架橋して、いったいどのような“資源観”を醸成していくべきなのか、議論していきたい。

宮本律子(秋田大学) 全体司会

秋田大学大学院国際資源研究科長 挨拶

西尾哲夫(国立民族学博物館)「フォーラムとしての現代中東地域研究の可能性」

縄田浩志(秋田大学)「文理融合／異分野連携の中東地域研究：人文学がつなぐ研究と実践の事例より」

藤井光(秋田大学)「中東地域の技術者との業務、研究を通じた交流」

千代延俊(秋田大学)「アブダビにおける石油開発と地球温暖化ガス削減」

渡辺寧（秋田大学）「中東地域の鉱物資源」

保坂修司（日本エネルギー経済研究所）「中東の資源をめぐる日本の外交と中東研究」

質疑応答・総合討論

座長：稲垣文昭（秋田大学）

登壇者：講演者6名、安達毅（秋田大学）

コメンテーター：片倉邦雄（元駐 UAE・駐イラク・駐エジプト大使）

17:00～18:00 日本中東学会総会

18:10～18:50 秋田大学竿燈会 竿燈妙技披露（秋田市にぎわい交流館AU にぎわい広場）（予定）

19:00～21:00 懇親会（秋田キャッスルホテル、秋田市にぎわい交流館AUより徒歩1分）

第2日：2019年5月12日（日） 秋田大学手形キャンパス

12:40～14:10 企画セッション

9:00～11:40／14:20～15:40 個人研究発表

12:00～13:00 「秋田大学大学院国際資源学研究科附属 鉱業博物館」展示案内

*氏名の右側の（ ）内は所属。Jは大学院生を指す。

【企画セッション】

企画セッション1（12:40～14:10）「中東の都市と農村における公共空間の変容」

深見奈緒子（日本学術振興会）・吉村武典（大東文化大学）・宍戸克実（鹿児島県立短期大学）「都市の街路と施設にみる公共空間の変容：エジプト、カイロ旧市街の事例から」

岡戸真幸（人間文化研究機構）「アホワ（喫茶店）と出稼ぎ労働者の関わり：エジプト、アレクサンドリアの事例から」

北澤義之（京都産業大学）・岩崎えり奈（上智大学）「ヨルダンにおける公共空間としてのディーワーン：ヨルダン北部の事例」

コメンテーター：私市正年（順天堂大学）

企画セッション2（12:40～14:10）

「大塚モスクによる難民支援：在日ムスリムによる国際協力の一例として」

司会・趣旨説明：子島進（東洋大学）

岡井宏文（早稲田大学）「在日イスラーム団体の社会活動とネットワーク：日本イスラーム文化センターを事例として」

佐藤麻理絵（日本学術振興会）「トルコにおけるシリア支援の構図：大塚モスクを起点とした人的ネットワークを中心に」

コメンテーター：日下部尚徳（東京外国語大学）

企画セッション3（12:40～14:10）「アラビア語のダイグロシアの現在」

司会：近藤久美子（大阪大学）

柴谷温子（慶應義塾大学）「ダイグロシアとは？」

榮谷温子 (慶應義塾大学) 「アラビア語エジプト方言版のウィキペディアに見るダイグロシア」

モハンマド・ファトヒー (東京都市大学) 「アラビア語圏における言語状況：エジプトに見られるダイグロシアの現況」

岡崎英樹 (四天王寺大学) 「書き言葉としてのダーリジャ：モロッコにおける言語生活の変容」

近藤久美子 (大阪大学) 「アラビア語教育をめぐるダイグロシアの問題：非母語話者への教育の場において」

企画セッション4 (12:40～14:10)

「多角的アプローチを通じて解明するシリア紛争の影響：人々の意識変化に関する量的研究、質的研究」

司会：高岡豊 (中東調査会)

浜中新吾 (龍谷大学) 「シリア政府支配下住民と国内避難民の国際関係認識：政治的認知地図によるアプローチ」

錦田愛子 (東京外国語大学) 「帰還をめぐる思い：シリア難民の移動に対する意識の比較分析」

青山弘之 (東京外国語大学) 「黙殺されてきたシリア内戦最大の被害者たちは何を欲しているか：IDPs 世論調査結果の地域研究的解読」

企画セッション5 (12:40～14:10)

「ムスリム社会における弱者の権利：子ども・病者・貧困者」

小野仁美 (神奈川大学) 「『子の利益』とは何か：チュニジアにおける離婚後の子の監護権をめぐる」

森田豊子 (鹿児島大学) 「現代イランにおける子どもの人権とイスラーム：『子どもと若者の保護』法案をめぐる議論」

細谷幸子 (国際医療福祉大学) 「イランにおける患者の権利をめぐる議論」

村上薫 (アジア経済研究所) 「貧者の権利とは何か：トルコの公的扶助の実践に見る権利概念の複数性」

コメンテーター：堀井聡江 (桜美林大学)

企画セッション6 (12:40～14:10) 「メディアとイスラーム思想／知の連環」

黒田彩加 (日本学術振興会) 「『現代のムスリム』誌にみるイスラーム改革思想の一展開：エジプト知識人の活動と「対話」をめぐる言論空間の形成」

相島葉月 (国立民族学博物館) 「エジプト人中流層のメディア消費と教養としてのスーフィズムの形成」

千葉悠志 (公立小松大学) 「衛星放送時代におけるイスラーム的知とその形成要因をめぐる考察」

企画セッション7 (12:40～14:10)

「サウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマにおける半世紀後の再調査：片倉もとこ調査資料の活用とその展開」

司会：片倉邦雄 (片倉もとこ記念沙漠文化財団)

石山俊 (国立民族学博物館)「ワーディ・ファーティマにおける土地利用・農業の変容」
遠藤仁 (人間文化研究機構/秋田大学)「ワーディ・ファーティマにおける物質文化
の記録保存」

郡司みさお (片倉もとこ記念沙漠文化財団)「ワーディ・ファーティマにおける民族
服飾の多様性と変容」

藤本悠子 (片倉もとこ記念沙漠文化財団)「半世紀前の被写体女性の氏名・親族関係
の同定：片倉もとこワーディ・ファーティマにおける調査の継続から」

企画セッション 8 (12:40~14:10)

「変容するエネルギー資源国のガバナンスの現状と課題：イラン, UAE, 中央アジア
の比較分析」

安達毅 (秋田大学)「秋田大学国際資源学部における資源学について (仮)」

稲垣文昭 (秋田大学)「中央アジアにおけるエネルギー資源を巡る対立と和解：タジ
キスタンとウズベキスタンの二カ国関係を事例に」

坂梨祥 (日本エネルギー経済研究所)「イランの『イスラーム新思考』の現在」

堀抜功二 (日本エネルギー経済研究所)「アラブ首長国連邦における国民形成の系
譜：『アラブの春』後の政治現象に注目して (仮)」

コメンテーター：清水学 ((有) ユーラシア・コンサルタント)

【個人研究発表】

第1部会

9:00~ 9:40 小野亮介 (早稲田大学)「批判対象としてのゼキ・ヴェリディ・トガン」

9:40~10:20 私市正年 (順天堂大学)「Al-Ruh 紙とアルジェリア・ナショナリズム
運動の再考」

10:20~11:00 鈴木均 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)「デモダナイゼーショ
ンとサイコナショナリズム再考」

11:00~11:40 竹村和朗 (日本学術振興会)「“人民の権利のため”：エジプトの国有
地返還請求キャンペーンの論理と制度化の考察」

14:20~15:00 高尾賢一郎 (日本学術振興会)「サウジアラビアにおける『公式』イ
スラーム言説の展開」

15:00~15:40 石神美代子 (九州大学J)「『アラブの春』後のクウェートにおける青
年層向け起業支援策の急増について」

第2部会

9:00~ 9:40 池端露子 (京都大学J)「宗教間対話の新しい国際戦略：イスラーム諸
国と国連の場合」

9:40~10:20 桐原翠 (京都大学J)「ハラール認証制度とイスラーム法の越境性：グ
ローバル化とローカル化の間で」

10:20~11:00 野中葉 (慶應義塾大学)「現代インドネシア社会におけるニカブ着
用現象」

11:00~11:40 足立真理 (京都大学J)「イスラーム思想における福祉的概念の探求：

貧困の定義とマカーシド・シャリーア論の展開に着目して」

14:20～15:00 野中恵子（一橋大学 J）「平明丸事件（1921 年）の再検討：第一次世界大戦の完全終結過程において事件が持つ意味」

15:00～15:40 清水学（(有) ユーラシア・コンサルタント）「平田篤胤・佐藤信淵からモーゼス・ヘスおよびヘルツェルのシオニズムを考える」

第 3 部会

9:00～ 9:40 Haidar Reda Mohamad（千葉大学 J）“The Revival of Tribalism during the Sectarian Conflicts in the Post Saddam Era”

9:40～10:20 Mostafa KHALILI（同志社大学 J）“The Merging Process of Tribal Identity into the Ethnic Identity: The Case Study of Qarapapaq Tribe in Sulduz Plain at the North West of Iran”

10:20～11:00 Qolamreza Nassr（広島大学）“Obstacles of Political Party Growth and Delay of Factional Coalition in Post-revolution Iran”

11:00～11:40 Scott Morrison（Oxford Brookes University）“Takaful (Insurance): Islamic Legal Arguments and Modern Structures”

14:20～15:00 二ツ山達朗（平安女学院大学）「クルアーンが記されたモノはどこへ行くのか？：チュニジア南部における室内装飾具の事例から」

15:00～15:40 小島宏（早稲田大学）「ベルギーのムスリム若者における宗教実践行動の関連要因：兄弟姉妹構成の影響を中心とする分析」

第 4 部会

9:00～ 9:40 吉村貴之（早稲田大学）「レバノン内戦とアルメニア人社会の変容」

9:40～10:20 岡部友樹（京都大学 J）「レバノン内戦とシリア内戦：比較は可能か」

10:20～11:00 山尾大（九州大学）「宗派主義の政治的意味をはかる：イラク主要紙の量的テキスト分析」

11:00～11:40 小山友（千葉大学 J）「移民政党 DENK の台頭とその政治的影響：オランダのイスラム系移民をめぐる政党政治の変化」

14:20～15:00 望月葵（京都大学 J）「隣接する『異邦』に暮らすシリア難民：ヨルダンにおける『生存基盤』と『帰属』をめぐる考察」

15:00～15:40 上野祥（東京大学 J）「ムバーラク政権期エジプトにおける政治的抑圧：人権団体の報告書を中心に」

第 5 部会

9:40～10:20 谷憲一（一橋大学 J）「現代イランにおけるシーア派アルバイーン参詣の発展とその意義」

10:20～11:00 西川優花（大阪大学 J）「イラン乾燥地域における水のコモンス：ザンデルロード流域からの検討」

11:00～11:40 保井啓志（東京大学 J）「イスラエルの動物の権利に関する運動・ヴィーガニズム：ナショナリズムとパレスチナ問題の関わりから」

14:20～15:00 鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学）・鷲見克典（名古屋工業大学）「アラビア語学習の契機、文化興味、学習結果：アラビア語集中講座合宿の受

講者を対象として」

15:00～15:40 フリード・イブラヒム（カイロ大学）「普遍的価値を広める翻訳方略の確立に向けて：宗教的表現の翻訳を考える」

第6部会

9:00～ 9:40 村上武則（京都大学 J）「変わりゆくクルド語出版：現代から過去へ」

9:40～10:20 岡崎弘樹（日本学術振興会）「現代シリア文学における『パレスチナ』」

10:20～11:00 ハディ・ハーニ（慶應義塾大学 J）「パレスチナ問題における『民族自決』概念の批判的検討：初期パレスチナ解放闘争における内在化の過程を通じて」

11:00～11:40 早川英明（東京大学 J）「宗派主義をめぐるレバノン共産党系知識人の議論」

14:20～15:40 Kim Joong-Kwan（Dongguk University）“Arab Refugee Issue: Socio-economic and Geopolitical Challenges”他韓国中東学会（KAMES）関係者発表予定

第7部会

9:00～ 9:40 早矢仕悠太（東京大学 J）「死地蘇生規定に関する学説相違にみる初期ハナフィー派の土地所有権取得観念」

9:40～10:20 大淵久志（東京大学 J）「ファフルッディーン・ラーズイーの政治神学」

10:20～11:00 相樂悠太（東京大学 J）「イブン・アラビー思想における『理性』（‘aql）の概念：『理性の限界の向こう』との関係に注目して」

11:00～11:40 澤井真（京都大学）「イブン・アラビー学派における完全人間論の展開」

14:20～15:00 近藤洋平（東京大学）「初期イバード派イスラーム法における先物売買の整備」

15:00～15:40 近藤信彰（東京外国語大学）「ガージャール朝『王室財産・ワクフ財台帳』の再検討」

第8部会

9:00～ 9:40 大河原知樹（東北大学）「『カーディー裁判』：そのイメージと現実」

9:40～10:20 秋葉淳（東京大学）「オスマン帝国における捕虜の手記（16-18世紀）」

10:20～11:00 鈴木真吾（慶應義塾大学 J）「近代オスマン帝国都市における疫病防疫策の変容：イズミルの事例から」

11:00～11:40 松尾有里子（お茶の水女子大学）「20世紀初頭イスタンブルにおける女子教師養成校（1909-1933）」

14:20～15:00 篠田知暁（東京大学）「ワッターズ朝期マグリブ・アクサーにおける境域の統治者とポルトガル国王の外交交渉」

15:00～15:40 押尾高志（千葉大学 J）「16世紀スペインのモリスコによるイスラーム知識の『スペイン語化』：アルハミーア写本を例に」

5. 発表予定者の皆様へ

発表予定者の発表要旨原稿の提出は3月1日（金）、大会参加費の事前申し込みは3月15日（金）に締め切りましたが、まだ振り込んでいない方は他の会員と同様に4月5日（金）までに必ずお振込みをお願いいたします。

4月5日（金）までに学会への入会手続を完了し、2018年度までの会費を納入していることも、発表資格条件の一部として定められております。期日までにこの条件が満たされない場合には発表をお断りすることもありますのでご注意ください。海外在住などの理由から参加費の振込が難しい場合には別途ご相談下さい。

なお、年次大会実行委員会事務局は、学会への入会手続き・会費の納入の代行はいたしません。下記 URL をご参照の上、発表者ご自身で手続き等を行って下さるようお願い申し上げます。

日本中東学会公式サイト内「入会案内」:

http://www.james1985.org/modules/about/index.php?content_id=3

同「入会フォーム」:

http://www.james1985.org/modules/about/index.php?content_id=9

6. 大会についての連絡先

日本中東学会第35回年次大会実行委員会事務局

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1

秋田大学大学院国際資源学研究科 縄田浩志研究室内

Tel: 018-889-3256 (縄田研究室直通) /

018-889-3297 (遠藤研究室直通)

E-mail: james2019akita@gmail.com

*可能な限りメールでご連絡お問い合わせをいただければ幸いです。

(縄田浩志 大会実行委員長)

『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

1. 35-1号 現在編集中

35-1号は、7月の刊行を目指して編集作業を鋭意進めております。論文1本、研究ノート2本、資料紹介1本、書評2本、特集原稿4本を掲載すべく、作業しております。

2. 35-2号 投稿締切

35-2号の締切は6月1日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を推奨、歓迎しております。また、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。

3. 博士論文要旨

AJAMESでは、会員による中東関連の博士論文要旨(英文)を掲載しています。とくに締切を設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。また、お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、

ぜひ投稿を呼びかけてください。

4. J-Stage 上でのバックナンバー公開

AJAMES のバックナンバーは、科学技術振興機構の電子ジャーナルの無料公開システム J-Stage 上で公開しています。刊行後、1 年を経た論文はこちらで閲覧できますので、ご活用ください。 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ajames/-char/ja>

本誌に関するお問い合わせ先は編集委員長の交代に伴い、4 月から変更になります。メールアドレスは変更ありませんので、こちらにご連絡ください。

『日本中東学会年報』編集委員会

E-mail: ajames-editor@james1985.org

(近藤信彰 AJAMES 編集委員長)

地域研究学会連絡協議会 2018 年度総会報告

去る 2018 年 12 月 8 日（土）に、東京外国語大学本郷サテライトにおいて、地域研究学会連絡協議会（JCASA）の年次総会が行われた。昨年に続き、本学会からは渉外担当の筆者が参加した。地域研究に関連する国内諸学会の代表に加えて、日本学術会議地域研究委員会から宮崎恒二氏、地域研究コンソーシアム（JCAS）から山本博之運営委員長の出席があった。日本中東学会は本協議会の創設時よりメンバーであり、2007-2009 年は事務局（大塚和夫氏と筆者が事務局長を担当）を担当したほか、近年まで幹事学会も務めてきた。本協議会はもともと、地域研究コンソーシアムと共に日本学術会議を下支えし、地域研究に関連する学協会を束ねて、互いに交流し提言を行うプラットフォームを提供することを旨としていた。

本年の総会では、まず事業報告としてニューズレターの刊行、そしてロシア・東欧学会と日本スラブ・東欧学会の合併に伴い、加盟学会が一つ減って 19 となったことが報告された。次いで、協議会の在り方や新たな事業内容の模索についても意見が交わされた。その後、日本学術会議地域研究委員会の宮崎氏から、現在まとめられつつある提言「変動する世界と地域の理解に向けて（仮題）」の説明があり、その内容について各学会から意見が述べられた。さらに、地域研究コンソーシアムの山本運営委員長から、その事業内容の説明があり、本協議会との協力関係について意見交換がなされた。

以下、筆者の印象を記させていただく。設立当初、本協議会は諸学会によって構成されていたのに対して、地域研究コンソーシアムは大学附置研究所や大学関連組織によって構成されることで棲み分けを行っていたと思われる。当初は協議会が学会組織を通じて、より市民の意見を汲み上げていたのに対して、コンソーシアムはその後、安定した運営体制を背景に活動領域を拡大し、加盟する学会や NPO を増やしたため、結果として協議会を構成する学会の多くはそちらへも重複して包摂されてしまった。それゆえ、協議会の当初のメリットの一つは失われつつある。このような状況のもと

で、協議会の意義をいかにして維持していくのかは、これまで以上に問われていると言えよう。また、日本学術会議地域研究委員会の提言に関連して言えば、歴史学研究におけるグローバル・ヒストリー研究に顕著なように、グローバル化進行のもとでの地域研究は新たな論理の構築を求められていると感ぜられる。グローバル化のもとで展開されるべき新たな地域研究の在り方を模索し、その意義を明確に社会へ発信していくことが本協議会に改めて求められているように痛感された。なお、過去のニューズレターは協議会のサイト (<http://www.jcas.jp/asjcasa/index-j.html>) で見ることができます。(大稔哲也 渉外担当理事)

寄贈図書

【単行本】

岩本佳子『帝国と遊牧民：近世期オスマン朝の視座より』京都大学学術出版会、2018年
小杉泰、黒田賢治、二ツ山達朗（編）『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版、2018年

子島進（編）『グローバル化する難民問題：イスラーム教徒の視点から考える』東洋大学アジア文化研究所、2018年

Hasebe Kiyohiko, Nobuo Misawa, and Sinan Levent (haz.) *Osmanlı İmparatorluğu ve Japonya: T.C. Başbakanlık Osmanlı Arşivi'ndeki Belgelere göre İki Ülke İlişkileri*, Waseda Üniversitesi Sergisi 2017 (『オスマン帝国と日本：トルコ共和国首相府オスマン文書館所蔵文書に基づく両国間関係』早稲田大学史料展示会 2017年) Tokyo: Asian Culture Research Institute, Toyo University, 2018年

Kuroki Hidemitsu (ed.), *Human Mobility and Multiethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 2: Tehran, Cairo, Istanbul, Aleppo, and Beirut* (Studia Culturae Islamicae 107; MEIS Series 23), Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies.

【逐次刊行物・ジャーナル・その他】

『季刊アラブ』160号、日本アラブ協会、2017年7月

『季刊アラブ』162号、日本アラブ協会、2018年1月

『季刊アラブ』165号、日本アラブ協会、2018年11月

会員の異動

【新入会員】

石神美代子

イブラヒム・ワリード・
ファルーク

岩田和馬

上野祥

小山友

郡司みさお

宍戸克実

鈴木麻菜美

谷憲一

奈須健

早矢仕悠太
藤本悠子

村上武則
Mohamad Haidar Reda

【所属・連絡先等の変更】

岩本佳子

植村清加

岡本恵

久保幸恵

野中葉

水島多喜男

事務局より

長かった私の任期もようやく終わりを迎えようとしています。これまでの任期中、私が大過なく事務局長の役職を務められたのは、理事・会員各位のご協力はもちろん、非会員ながら事務補佐の任を引き受けてくださった「影の事務局長」である山口元樹さん（東洋文庫研究員）の奮闘の賜物です。ここに記して篤く御礼申し上げます。以前より負担が軽減されたとはいえ、事務局長・事務補佐の業務負担は依然過大なものであり、本務の学務・教育、自身の研究と並行して行うにはしばしば困難が伴います。会員の皆さまには、事務局の窮状をお酌み取りいただき、一層のご理解・ご協力をいただければ幸いに存じます。

（勝沼聡 事務局長）

編集後記

2018年度の、そして第17期理事会が発行する最後のニューズレターとなりました。

季節もようやく春めいてきて、異動などで気ぜわしくお過ごしの方の会員もたくさんおられようかと思えます。往く人も、また留まる人も、それぞれに心新たに新年度を迎えられ、研究に教育に実り多い日々を過ごされることを念じます。それとともに、35年目を迎える日本中東学会が日本とアジアの中東研究を主導する学会として、さらに充実した活動を展開し、会員諸氏が日本中東学会をこれまで以上に盛り立ててくださることを祈ります。

同時に、創設期に比べて規模の拡大した学会の運営は、ともすると理事や事務局に厳しい負担を求めることになっています。今後、法人化などを含め、学会の活動がさらに拡大していくであろうことを考えれば、会員の皆様のご理解あって、より多くの会員に、会費以外にも様々な活動で応分の負担をいただくなどすることが必要となっていくでしょう。円滑な学会運営に向けたさらなる工夫がなされるよう、会員諸氏の知恵を絞って取り組んでいくことが大切だと思います。

私個人は、3期6年間の理事としての職務を終え、規定により理事職を離れますが、慣例により新しい期のニューズレターの最初の号は、旧期の担当理事が主に編集を行うこととなっていますので、もう1号だけはお付き合いいただきます。改めてよろしくお願ひ申し上げます。

（赤堀雅幸 ニューズレター担当理事）

日本中東学会ニューズレター 第 154 号
発行日 2019 年 3 月 18 日
発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局
〒108-8345 港区三田 2-15-45
慶応義塾大学文学部 勝沼聡研究室内
E-mail: james@james1985.org
<http://www.james1985.org/>
郵便振替口座：00140-0-161096(日本中東学会)
銀行口座：三井住友銀行渋谷支店(普)5346808
(日本中東学会)
ゆうちょ銀行口座：〇一九店(当)0161096
(ニホンチュウトウガクカイ)